

## お母さんの詩

### 「Tちゃんと一緒に」 Tさん(5歳)のお母さん



息子は今5歳。重度の知的障害と自閉傾向があり、発語がほぼ無く、コミュニケーションや会話が難しいです。診断されたのは3歳頃で、私自身は今思うと息子を産んだ翌日に看護師さんから「もしかしたら肛門がないかもしれない」と言われてから、モヤモヤしていたのかもしれない。首が座るのも二、三か月頃かなと思いきや半年過ぎてからで、その後の発達具合も一般的な、それこそ長女と比べると明らかに遅く、心の中にあつたモヤモヤはだんだん大きくなっていきました。

当時、不安だった事は私が何を話しかけても特に反応なく、どんな変な顔や笑わせるような事をしても全く笑わなかったのに、洗濯機が回っている、洗濯物を干す際にパンパン！と伸ばす、水が流れている様子等を見た時に満面の笑みを浮かべている事でした。本来であれば、笑っている顔をみたいのに、笑えるような事では無い事でニコニコしている事が余計に怖くなっていきました。それでも夜は寝てくれていたので、毎晩息子の様子を探索しながら携帯とにらめっこしていました。

療育施設はご縁があり、音楽療法と自然豊かな場所で遊べる二か所に通いながら、いこいさんの親子教室に何度か行かせていただきました。今でこそスプーンやフォークを使うのが本人も当たり前になっていきますが、当時はシチュエーションも手づかみが当たり前で（今思うとそれも意味尊敬）食べられない物が多く、お皿に盛ってある分だけ飲み込む前にどんどん口に入れてしまつて嘔吐してしまつたり食事に苦労しましたが、その様子を見ても全く動じず、いよいよいよいよ！いっばい食べな！と面倒をみながら言ってくださり、今まで私が食事は本当に大変と思つていたのが恥ずかしいと思つた瞬間でした。

いこいさんに入園してから、少しずつ食具を使えるようになったり椅子に座っていられる時間が長くなつてきたり、おもちゃで遊ぶはず暇つぶしができず常にお菓子や食べ物を探し求め手当たり次第バッグの中を漁り中身を床にばらまいていたのが（今もたまにやりませんが）、本をパラパラしたりお皿を回して嬉しそうに涎を垂らしながら見ていたり、まだまだありますが本人の好きなことが見つかり嬉しいです。意思の伝え方やトイレトレーニングも少しずつできてきて毎日接して様々なことを教えてくださっている先生方には感謝の気持ちでいっばいです。

発語がほぼない息子に、一時期一生懸命話しかけてもわかんないんだらうなと思ひ話しかけることをやめようかと悩みましたが、毎日カンパニー！とビール片手に隣に座る息子にカチンと当てているとだんだんきやはつと笑ってくれるようになってきたので、返事が返つてこなくてもたくさん話しかけてもつと息子と一緒に私達らしい会話ができるようになってほしいなと思います。日々頑張ろう！





# 卒園・修了式

3月27日（金）に卒園・修了式が行われ、14名のこどもたちがいこいの家の思い出を胸に巣立っていきました。“希望の花を咲かせよう”をテーマに式が執り行われました。卒園児の皆さんの今後の成長を楽しみにしております。尚、43名の修了児のお友だちは、4月から新しい1年がスタートします。新しいお友だちとも楽しく遊ぼうね。



# 令和7年度卒園式 謝辞

日に日に暖かさを増し、やわらかな春の訪れを感じる季節となりました。

今日のよき日に、このような心温まる卒園式を迎えることができて心より感謝申し上げます。

ご来賓の皆様におかれましては、お忙しいなかご足ゆくたまり、深く感謝申し上げます。

僱越ながら保護者も代表し、お礼のご挨拶を述べさせていただきます。

思い返せば入園当初、私たちは希望と不安でいっぱいでした。

心疾患を持つ子どもが禍に生まれたこともあり、限られた狭い世界の中で過ごしていた娘と私にとって、園生活は大きな一歩でした。

幼い我が子を預けることに不安を感じていた日々が、いつの間にか思い出になるほど、娘は毎日笑顔で帰ってくるようになりました。

娘の笑顔や、連絡ノートから伝わる先生方の温かい言葉に触れるたび、私も安心して娘を預けられるようになりました。

入園した頃は「ママ」としか言えなかった娘が、今では「今日は誰と遊んだのか」

「どの先生と一緒にだったのか」「何をしたのか」をキラキラした目で話してくれるようになりました。

これも、先生、職員の方々が毎日子どもたちと向き合い、愛情を持って一人一人にあわせた関わりを考えてくれたおかげだと感謝しています。

一緒に悩んだり喜んだり、そんなお母さん達の存在がとも大きな励みになりました。

いつも支えてくれたお母さん達、そしてお会いしてくれた子供たちにも感謝の気持ちでいっぱいです。

先生方、職員の方々は、毎日子どもたちと向き合い温かく成長を見守っていただきました。

先生方の支えがあったからこそ、今日この日を迎えることができたのだと改めて感じています。

卒園を控え、子どもたちはまた一つ、大きな一歩を踏み出し、これから小学校へと進んでいきます。

親として不安な気持ちもありますが、

あたたかいの家の過ごした日々や、ここで得た経験を糧に、それぞれの場所で、楽しい毎日を重ねていくと信じています。

最後になりましたが、いこいの家の皆さまの発展と、先生方をはじめ関係者の方々のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、お礼の言葉に代えさせていただきます。

令和八年 三月二十七日

保護者代表 Kちゃんのお母さん





いこいの家 施設長 有田瑞恵

今年の桜は3月末から咲き始め、4月になってもまだあちこちで満開の桜が見られます。町内のお宅の玄関先や庭先には様々な色とりどりのお花が咲いていて、春をいっぱい感じさせてくれます。3月にいこいの家を卒園したこどもたち、新しくいこいの家に入園するこどもたちの新しい一歩を応援してくれているようです。

先月3月27日、令和7年度の卒園・修了式を実施し、14名のこども達がいこいの家を巣立っていきました。1人1人に証書を渡しながらか、自信に満ちた表情を見て成長を感じ、胸がいっぱいになりました。卒園式後は父母の会が準備して下さった風船をみんなで空に飛ばして、新たな旅立ちをお祝いしました。就学先は特別支援学校や地元の特別支援学級など様々な場所で新たなスタートを迎える事となります。新しい生活に慣れて、楽しく元気に過ごせるように願っています。

令和8年度の入園・始業式は4月3日。20名の新入園児と、ちょっぴり先輩になった継続児合わせて63名でスタートしました。新入園児だけでなく、継続児も初めましてのお友達と出会うので、こどもも大人もみんながドキドキソワソワしています。入園式の後はクラス毎で顔合わせをして、1年間どうぞよろしくのご挨拶をしました。

職員は、今年度は4月の異動や退職はなく、昨年度と同じメンバーでのスタートとなります。新鮮さはありませんが、チームワークよく支援にあたっていけたらと思っています。子ども達や保護者の方々と仲良くなって、子どもの健やかな成長のために、一緒に進んでいきたいと思ひます。

地域の皆様には、今年度もいこいの家を温かく見守っていただけたら幸いです。

様々な支援の場所がある中から、選んでいただきたいこいの家。行くのが楽しい、いこいの家を利用してよかった、と思ってもらえるように職員一同努力していきたく思ひます。

令和8年度もどうぞよろしくお願ひします。



### いこいの家 インスタグラム

いこいの家 インスタグラム (ikoinoie\_kodomo) でも、行事の様子などを紹介しています。ぜひご覧ください！

